

三愛 ビュー view

発行所：三船病院相談室
 創刊日：2003年8月15日
 〒763-0073
 香川県丸亀市柞原町366
 Tel 0877-23-2341
 Fax 0877-23-2344



【児童思春期専門外来 開設のお知らせ】

三船病院院長 三船 義博

このたび当院では、2025年4月より「児童思春期専門外来」を新たに開設いたしました。

本外来は、思春期に特有のこころの不調や発達に関する問題を抱える子どもを対象とした専門的な診療を提供することを目的としています。思春期は、身体的な成長とともに、心理的・社会的にも大きな変化が訪れる非常に重要な時期です。思春期にあたる子どもたちは、学校や友人、家庭など多くの環境から影響を受けながら、自分という存在を見つめ、社会の中での役割を少しずつ身につけていきます。一方で、こうした環境の変化や人間関係の影響により、戸惑いや葛藤、不安やストレスを感じることも珍しくありません。こうした中で、周囲とのコミュニケーションがうまくいかず、学校に行くのがつらくなったり、イライラが募ったり、自信を失ってふさぎ込んでしまうこともあります。

近年、発達障害を持つ子どもへの支援の重要性がますます高まっています。発達障害は、自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如・多動症（ADHD）、学習障害（LD）などが含まれ、脳の働き方に生まれつきの特性があるため、日常生活や人との関わりにおいて困難を感じやすい状態です。こうした特性を持つ子どもは、周囲とのコミュニケーションに難しさを感じたり、集中力を持続させることが難しかったり、学習においても課題を抱えがちです。その結果、二次的に不安や抑うつといった症状を併発し、こころの不調として表れることがあります。発達障害の診断数は近年増加しています。その要因のひとつとして、2013年に改訂されたDSM-5（精神障害の診断と統計マニュアル第5版）における診断基準の変更があります。この改訂により、以前は「少し個性的」と捉えられていた特性が、診断の対象となるケースが増加しました。また、社会全体で発達障害に対する認識が深まりつつあることも、大きな要因です。保護者の方々や学校現場などでも、発達特性に対する理解が進み、「少し気になる」段階から相談に訪れるケースが増えています。

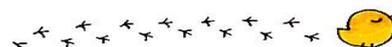
一方で、発達障害の過剰診断の問題も指摘されています。診断を受けることで必要な支援につながるという大きなメリットがある一方で、本人や周囲がその診断名に

とらわれすぎてしまい、「障害だから仕方がない」と過度に受け止めてしまうケースも見受けられます。そのような状況では、本人が本来持っている力を発揮する機会を失い、自信を喪失したり、将来的な成長の可能性が狭められてしまうおそれもあります。また、診断によって学校や家庭での問題の本質（たとえば人間関係のストレスや家庭環境の変化など）が見過ごされることもあります。大切なのは、「診断」よりも「支援」に目を向けることです。子どもたちが抱える困りごとの背景を丁寧に見極め、それぞれの特性に応じた支援や環境調整を行うことにより、本来持っている力を最大限に発揮できるようサポートすることが重要です。早期に気づき、適切な関わりにつなげることで、子どもたちが自分らしく、前向きに成長していける環境づくりが可能となります。さらに、学習や対人関係におけるつまづきを早い段階で把握し、環境を整えたり心理的なサポートを行ったりすることは、本人の自己肯定感を育み、将来に希望を持って歩んでいくための大きな支えとなります。

特に思春期は、自分の特性に悩んだり、将来に対する不安を抱きやすい時期です。このような時期に、専門的な視点からこころの問題や発達特性を丁寧に見立て、保護者や学校などと連携して支援を行うことは、本人が安心して成長していくために重要と考えられます。

本外来では、医師、心理師、看護師、精神保健福祉士など、多職種によるチーム医療体制を整えています。対象は小学5年生から大学生までとなり、発達や学習の悩み、不登校、気になる行動、人間関係の悩み、学校や家庭での悩みなど、それぞれの困りごとに応じた対応を行います。専門外来のため予約制となっており、初回受診の申し込みは必ず地域連携室（TEL：0877-23-6399）まで連絡をお願いいたします。

今後も当院は、地域における児童思春期医療のさらなる充実をめざし、こころや発達に関するさまざまな悩みを抱える子どもたちとご家族に、安心してご相談いただける場を提供してまいりたいと思います。関係機関の皆さま、保護者の皆さまからのご相談・ご紹介をお待ちしております。



ご挨拶



児童思春期専門外来担当医師

小児神経専門医 伊藤弘道

皆様こんにちは。2025年4月より児童思春期専門外来を担当させていただくことになりました伊藤弘道と申します。以下に私の経歴について紹介させていただきます。

1999年3月に徳島大学医学部を卒業し、同年4月より徳島大学医学部小児科学教室に入局いたしました(小児科医)。その後医局人事で徳島大学病院をはじめとした各種病院小児科勤務を経験し途中2005年3月には徳島大学大学院修了(医学博士)、2017年からは医局人事を離れて鳴門教育大学に勤め現在に至ります。鳴門教育大学では産業医・心身健康センター(いわゆる他大学での保健管理センターに該当し、2018年度より所長)・大学院学校教育研究科特別支援教育コースの教員(2017年度准教授、2018年度より教授)として勤めております。尚、医局人事からは離れましたが現在も月曜日に徳島大学小児科で小児神経外来(発達障害児等の診療)を務めております。これから児童思春期専門外来を発展させるよう努めていきたいと思っておりますので今後とも皆様のご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

三船病院よりみゆさまへお知らせ



児童思春期専門外来開始について

2025年4月より、児童思春期専門外来を開始することになりました。

専門医 伊藤 弘道 医師
外来日 主に土曜日(午前/午後)

受診対象 小学5年生から大学生まで
受診内容 発達の問題、学習の問題、不登校、気になる行動、人間関係の問題、学校や家庭での悩みなど



初回受診予約方法

- ★ 専門外来のため予約制となっております。
- ★ 初診時、診察前に簡単な聞き取りがあります。
- ★ 未成年の方はご家族と一緒に来院してください。
- ★ 通院先のある方は、紹介状を持参してください。
- ★ ご家族のみでの相談も可能です。
- ★ 母子手帳など幼少期の様子のわかるものがあればご持参ください。
- ★ 入院対応は、お受けできないことがありますのでご理解ください。
- ★ 初回受診のお申し込みは、必ず受診予約専用ダイヤルまでお電話ください。



受診予約専用ダイヤル
三船病院 地域連携室
TEL 0877-23-6399
(予約受付時間 9:30-16:30 日祝日除く)
〒763-0073 丸亀市神原町366
TEL 0877-23-2341 (代)

三船病院医師からのメッセージ...



『慢性腎臓病 (CKD(Chronic Kidney Disease))について』

精神科医師 今井 秀記

1個の腎臓には100万個の糸球体(腎臓2個で200万個)があり、糸球体で血液が濾過されて原尿ができる。原尿が尿細管を通る間に色々な物質の吸収と分泌が行われ尿が生成される。糸球体で濾過される物質の大きさは7~10nmくらいであり、血球や分子量の大きいたんぱく質などは濾過されない。糸球体で濾過される血漿量(血球は通過できないので血漿)を糸球体濾過量(GFR(Glomerular Filtration Rate))という。GFRを実際に測るのは大変なので血清クレアチニン値(Cr)と年齢で糸球体濾過量を推定した推算GFR(eGFR(estimatedGFR))を用いて腎機能を推定する。正常なeGFRは100mL/分/1.73m²前後である。1.73m²あたりというのは体表面積で正規化しているためである。

【eGFRの計算式】

男性: eGFR(mL/分/1.73m²)=194×[Cr(mg/dL)の-1.094乗]×[年齢の-0.287乗]

女性: eGFR(mL/分/1.73m²)=194×[Cr(mg/dL)の-1.094乗]×[年齢の-0.287乗]×0.739

ややこしい計算だが、検索すればeGFRを計算してくれるページがある。

(例えば協和キリンのサイト <https://www.kyowakirin.co.jp/ckd/check/check.html>)

最近では血液検査をするとeGFRが記載されていることが多い。

CKDとは、[(腎障害)and/or(腎機能の低下)]が3ヶ月以上続いている状態をいう。腎障害とは、たんぱく尿(微量アルブミン尿を含む)などの尿異常や画像診断・血液検査・病理所見で腎障害が明らかである状態。腎機能の低下とは、eGFRが60mL/分/1.73m²未満の状態。eGFRは加齢・高血圧・糖尿病・脂質代謝異常などで低下していくが、所謂体質も関係している。健康的な生活をしていても、eGFRが下がっている場合があるので注意しておく必要がある。eGFR<15mL/分/1.73m²は末期腎不全の状態。

SGET2(sodium glucose co-transporter 2)とは「選択的ナトリウム-グルコース共輸送体2」のことで、腎臓の近位尿細管で原尿中のブドウ糖を血液中に再吸収するたんぱく質である。SGET2阻害薬は、腎臓での糖の再吸収を抑制する糖尿病治療薬であるが、腎保護作用があることも分かっており、現在、非糖尿病性腎臓病でも使用されている。





【三愛会 コミュニティケアセンター】

【多機能型事業所 ワークサポートセンター三愛 就労継続支援 B型事業さんあい】

社会福祉士 久保 直子

さんあいの登録者数は現在45名で、1日約20～30名前後の方が通所しています。週5日、終日参加される方、週2～3日午前のみの方など、利用の仕方は様々です。生活リズムや体調に合わせて利用されています。作業内容は、施設内で行う軽作業（服の糸切り、換気扇フィルター、ゴミ袋の枚数数え、進物箱を折る、のし折り等）や施設外就労（三船病院内の清掃作業と食器洗浄作業、農作業、運輸会社にて仕分け作業）を行っています。利用者の方それぞれが得意な分野を活かして作業に参加しており、様々な経験を通して自己理解等を深めていけるように個別相談などの支援も随時行っています。

さんあいに通所されている方の目標は様々ですが、ステップアップして就職を目指している方も多く個別に準備を行います。就職ガイダンスの参加やハローワークの相談、就労移行・定着支援みなみの体験利用、A型事業所への見学の他、就労移行・定着支援みなみや障害者就業・生活支援センターくばらと連携して企業見学や職場実習を行っています。令和4年度1名、令和5年度2名、令和6年度2名がB型から就職し、現在も頑張っている。就職後は就労定着支援を利用し職場訪問や来所相談をしています。また、コロナ禍のため中止していた外ランチの行事を再開しました。今後も利用者の方の要望などを聞いて、より良い支援が行えるように努力していきたいです。



デイケア・デイナイトケア



～あなたらしさが見つかる場所～

デイケア室 精神保健福祉士 船本 佳典

デイケア・デイナイトケアとは…精神疾患を抱えた方々が多種多様なプログラムに参加し、同じ悩みを持った『仲間』同士で支えあい、様々な体験を通して、『自信』を取り戻し、自分らしい生活を見つけるための場所です。

サポートする上で、利用者は3つのグループ

ステラ Stable life 心の安定を第一に考えたグループ

サクラ Success of life 健康や生活の維持・向上を目指したグループ

フラネ Fry to next 就労等、ステップアップを目指したグループ



に所属し、活動に参加します。利用者一人ひとりの『希望』を尊重し、自分の目的に合ったプログラムを選択できるように、プログラムのみ他のグループへ参加出来る等、柔軟な対応に努めています。プログラムの内容は、卓球・ウォーキング等の『運動』…音楽活動・茶道等の『芸術』…パソコン教室・ストレスマネジメント等の『教育・心理』…園芸・料理教室等の『生活スキル』といった構成です。

利用者の声としては、『皆でゲームをしたり、外出をしたり等、楽しく交流できる憩いの場所…』『園芸だけでなく、収穫した野菜を使って調理をして、皆で喜びを分かち合いよかった…』『ストレスの気づきや自分なりの対処法を学んだ…』『たくさんのプログラムに参加することで新しい発見ができた…』等、挙げられています。利用者の声を第一に『心』に寄り添い、常に新しい視点を持ち、地域生活の中で安心して『希望』を持って、自分らしい生活を送れるようにサポートしていきたいです。

三愛会 トピックス

歌やレクリーションで会場内の皆様も参加し
楽しく過ごしました。



三船病院
5月フェスタ
2025年5月11日(日)

☆催し物☆
☆演奏会 9:40~10:30 (三船会館)
・ゲスト歌手公演
『アンサンブル・ムジカ』
・レクリエーション

☆家族教室 (中央館2階講堂)
医師による
『高齢者が気をつけたい病気と認知症』
のお話し 11:30~12:30

☆バザー 9:00~13:00
たこ焼き 大判焼き
抹茶 ジュース
アイスクリン ポップコーン
喫茶 (ケーキ・プリン)
花苗 フリーマーケット など

☆癒やしのマッサージ (無料) 9:00~13:00
☆うどん・すし (無料) 10:30~12:30

どなたさまもお気軽にお立ち寄りください

今回の家族教室は、認知症についてのお話でした。



バザーも行列が出来るとの
大人気でした。



《編集後記》

薫風香る5月の日曜日に今年も『5月フェスタ』を開催いたしました。心配されていた天候も爽やかな1日となり、たくさんの方々にご参加をいただきました。ご協力頂きました皆様にお礼申し上げます。地域に開かれた病院として今後もお気軽に当院に足をお運びいただけたらと思います。(三船病院相談室MHSW)